

第1章

ロシア国家中枢の人事政策——パートルシェフ 大統領補佐官の人事発令に着目して

防衛省防衛研究所主任研究官 長谷川雄之

2024年3月のロシア大統領選を経て、5月には通算5期目のプーチン政権が発足した。2020年に実施された憲法改革では、組閣プロセスに大幅な変更が加えられたため、上下両院が連邦大臣・長官等の任命に関与することとなった。議会勢力に鑑みれば、形式的な関与であるものの、この制度は初の運用となった。またウクライナ戦争下における組閣プロセスとあって、人事政策の変容に注目が集まった。連邦保安庁（FSB）を中核とする治安機関関係者（シロヴィキ）に焦点を絞れば、防諜部門出身のニコライ・パートルシェフ安保会議書記の大統領補佐官への配置転換が注目の人事発令と言えよう。

パートルシェフは、レニングラード造船大学計器製造学部を卒業後、国家保安委員会（KGB）に入り、レニングラード支局防諜部門、連邦防諜庁勤務を経て、1998年に大統領府次官兼大統領府監督総局長、翌1999年から2008年まで連邦保安庁長官を務めるなど「シロヴィキ」本流のキャリアパスを歩んできた¹。2008年のドミトリ・メドヴェージェフ政権の発足とともに安保会議書記に就任し、およそ16年間にわたり同職を務め、2024年5月に安保会議書記を解任され、大統領補佐官に就任した。パートルシェフの安保会議常任委員としてのステータスは維持され、大統領補佐官としての特命事項は造船業とされた²。

2024年8月には新たに海洋参事会が大統領令によって設置され、議長にはパートルシェフ大統領補佐官が任命された。海洋参事会の下には、海軍戦略発展会議、北極における国益擁護会議、海洋活動発展・保障会議が設置され、海洋参事会の事務局機能は2024年6月に新設された大統領府内部部局の国家海洋政策局が担うこととされた³。国家海洋政策局長には安保会議副書記としてパートルシェフを長年支えてきたセルゲイ・ヴァフルコーフが就いた⁴。ヴァフルコーフの安保会議事務機構から大統領府内部部局への配置転換は、パートルシェフ大統領補佐官を直接補佐するための人事発令であろう。さらに海洋参事会の設置に伴い、安保会議に附属した北極における国益擁護問題に関する省庁間委員会が廃止されたことから⁵、安保会議の一部機能が海洋参事会と大統領府内部部局に移管されたものとみられる。パートルシェフ大統領補佐官の所掌事項には、造船業のみならず、ロシアの軍事安全保障上極めて重要な北極政策も含まれるものと考えられる。パートルシェフ補佐官の次男アンドレイ・パートルシェフは、FSBアカデミー修了後、FSB経済安全保障局（第4局）産業部第9課課長補佐を務め、エネルギー畑を歩み、北極イニシアティブセンター総裁を務めるなど⁶、シロヴィキとエネルギー利権、そして北極政策は、パートルシェフ家を抜きにして語ることはできない。また、2024年5月の組閣では、パートルシェフ補佐官の長男で、農政畑のドミトリ・パートルシェフ農相が副首相に昇任するなど、「シロヴィキ二世」の登用も一部に見られた。

ただし、ここで紹介した一連の機構改編や人事発令は、「シロヴィキ」本流としてのKGB時代からの実務経験に加えて、連邦保安庁長官と安保会議書記を長く務めたニコライ・パートルシェフ本人の政治的影響力を背景としたものであり、シロヴィキ勢力の「世襲」文化がどの程度定着しているのかという点については慎重に検討する必要がある。

また、ニコライ・パートルシェフに代わり、後任の安保会議書記にはセルゲイ・ショイグー国防相が就いた。国家安全保障政策領域における大統領府及び安保会議による総合調整機能の大枠は維持されているものの、大統領府国家海洋政策局と海洋参

事会の設置に見られるように、細かな所掌事項の変更は見られる。また、国家安全保障上の重要事項を一手に引き受けてきた安保会議事務機構の幹部人事にも若干の変化が見られた。

安保会議書記の人事発令にあわせて、上述のヴァフルコーフのほか、ロシア軍出身のミハイル・パポフ副書記が退任し⁷、新たにグリゴリー・モルチャーノフが副書記に就任した。1956年生まれのモルチャーノフ副書記は1973年から2024年までおよそ半世紀にわたる軍務経験を有する人物で⁸、パポフ副書記の後任（ロシア軍卒）と見られる。

さらに2025年3月には新たに1982年生まれの経済発展省出身の若手の国家官僚、アレクサンドル・マースレニコフが副書記に就いた⁹。高等経済学院出身者のマースレニコフは、経済・社会政策を所掌していたヴァフルコーフ副書記の後任と見られる。

ロシア国家中枢の人事政策を分析する際には、「シロヴィキ」としてのバックグラウンドやその「二世」の動向に留意しつつ、現代ロシアにおける人材育成のシステムと若手の登用を含む人事制度の実際的な運用形態、さらにウクライナ戦争が人事政策に及ぼす影響により注目すべきであろう。

【補遺】2025年5月15日付大統領令第321号により、オレグ・サリュコーフ陸軍総司令官が安保会議副書記に任命された¹⁰。なお後任の陸軍総司令官にはアンドレイ・マルドヴィチョフ中央軍管区司令官が任命される見込みであると報じられている¹¹。第2次ロシア・ウクライナ戦争下における大統領補助機関と国防省・ロシア軍の関係を分析する上で重要な人事であり、本件については一連の規範的文書が出揃った段階で詳細に検討する。

¹ ニコライ・パートルシエフ安保会議書記のプロフィール、大統領府・安保会議の制度・人事に関する基本事項については、次の文献を参照。長谷川雄之『ロシア大統領権力の制度分析』慶應義塾大学出版会、2025年。

² РБК, от 14 мая 2024г., «Патрушева в администрации президента назначили куратором кораблестроения».

³ Пункт 22, «Положения о Морской коллегии Российской Федерации», Указ Президента РФ от 13 августа 2024г., № 691 (ред. от 10 марта 2025г.), «О Морской коллегии Российской Федерации (вместе с "Положением о Морской коллегии Российской Федерации")», Собрание законодательства Российской Федерации (далее СЗРФ), 19 августа 2024г., № 34, ст. 5228.

⁴ Указ Президента РФ от 12 июня 2024г., № 483, СЗРФ, 17 июня 2024г., № 25, ст. 3474.

⁵ Статья 5, Указа Президента РФ от 13 августа 2024г., № 691.

⁶ РБК, от 06 апреля 2015г., «Сын Патрушева,однокурсник Фрадкова»; от 27 ноября 2019г., «Андрей Патрушев возглавил Центр «Арктические инициативы»; agentura.ru, <https://agentura.ru/profile/federalnaja-sluzhba-bezopasnosti-rossii-fsb/struktura-fsb-centralnyj-apparat/>

⁷ Указ Президента РФ от 31 мая 2024г., № 455, «О Попове М.М.», СЗРФ, 03 июня 2024г., № 23 (часть I), ст. 3136.

⁸ Совбез РФ, <http://www.scrf.gov.ru/about/leadership/MolchanovGV/>

⁹ Совбез РФ, <http://www.scrf.gov.ru/about/leadership/MaslennikovAV/>

¹⁰ Указ Президента Российской Федерации от 15 мая 2025г., № 321, «О заместителе Секретаря Совета Безопасности Российской Федерации», <http://publication.pravo.gov.ru/document/0001202505150048>

¹¹ Известия, от 15 мая 2025г., «Генерал-полковник Мордвичев назначен главнокомандующим Сухопутными войсками ВС РФ»; Военное обозрение, от 15 мая 2025г., «Сообщается, что новым главкомом Сухопутных войск якобы назначен командующий группировкой войск «Центр» Андрей Мордвичев».